

学位論文審査の要旨

学位申請者	森 裕子 人間発達科学専攻2020年度生		論文題目	なぜ女性同士の対立は生じるのか？ —マウンティングの発生と対処法に着目して—
審査委員	主 査:	石丸 径一郎 教授	インター ネット 公表	学位論文の全文公表の可否： 否
	副 査:	山田 美穂 准教授		「否」の場合の理由
	副 査:	高橋 哲 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	平野 真理 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	砂川 芽吹 助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (社会科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Clinical Psychology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本学位論文は、女性同士の対立につながりやすい行動としてマウンティングに着目し、マウンティングの実態を把握し、それらへの対処法を考案することで、精神的健康の向上を目指すものである。マウンティングとは、自分の方が優位であると相手に誇る言動を指し、近年注目されている現象である。本研究は、第1に、女性同士の場における女性の行動や好悪の特徴について明らかにし、マウンティングについて検討する素地を提供すること、第2に、女性同士のマウンティングの実態について把握し、それらへの対処法を考案することを目的としており、第1部にて概念の整理と研究の概要の提示が行われた。

第2部では、女性同士でのコミュニケーションと好悪の特徴を検討した。第5章では、女性の社交場面での行動を、場面想定法を用いた質問紙調査で検討した。その結果、女性のみでのコミュニケーションは、男性もいる場とは異なることが示唆された。第6章では、女性同士のコミュニケーションに焦点を当て、偏見と平等主義志向性の関連を検討した。第7章では、他の女性への評価に関する調査を行い、好悪の評価とその影響要因を明らかにしたが、より婉曲的な言動による対立について検討を行う必要があると考えられた。

次に、第3部では、女性同士のマウンティングに焦点を当て、その実態を明らかにし、対処法の考案を目指した。第8章では、マウンティングの概念を精緻化するために、エピソードの収集と質的分析を行い、その構造を明らかにした。また、エピソードは婉曲的であり、受け取り方によって成立が左右される可能性があることが示唆された。第9章では、マウンティングの受け取り方に関連する女性の性的欲求を測定する尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。第10章では、マウンティングに対する敏感さを測る尺度を作成し、影響を与える要因を検討した。第11章では、マウンティングによる傷つきの軽減を目指し、認知行動療法の思考記録とセルフヘルプ・グループの知見を援用した介入研究を行い、効果を検討した。

以上から、女性同士のマウンティングは膠着した三すくみ構造を成し、その中で繰り返されている可能性があること、マウンティングを受けたと感じた経験を記録することや、他の女性とマウンティングについて話し合うことが有効な対処となる可能性があることが明らかになった。

本研究の内容は、筆頭著者として2報の査読付き学会誌論文(日本性科学会雑誌)、2報の査読付き紀要論文(お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要)として既に出版されている。

学位論文の審査に当たって、臨床心理学を専門とする審査委員により構成される審査委員会を設置した。2023年11月27日に第1回審査委員会を行い、論文の構成や考察の内容について修正意見が出された。2024年1月15日に開催された第2回審査委員会にてさらにマイナーな修正意見が出され、2月14日に開催された第3回審査委員会にて、すべての修正意見に対して適切な修正がなされていることが確認された。2月19日に開催された公開発表会では、すべての質問に対して適確な回答がなされた。

審査委員会では、本研究が、女性同士の対立やマウンティングという社会的関心の高いテーマに対して、そのメカニズム、測定、対処法にアプローチした意欲的な研究であり、学術的に高いレベルにあると結論した。上記の理由により、本論文は博士論文として十分な内容であり、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科において、博士(社会科学)、Ph.D. in Clinical Psychologyの学位を授与するにふさわしいと判断し、合格とした。